

ふるさと小野町会 ふれあい通信



晩秋の青森を旅して
春山 泰
埼玉支部・小戸神出身

昨年の晩秋、リンゴの生産量日本一の品種「ふじ」の収穫最盛期に、青森県八戸から津軽地方へ車で二泊三日の横断旅行をしたときの観光スポットを、私なりに紹介させていたいただきます。

一日目、八戸港で水揚げされたばかりの魚介類が数多く並ぶ「八食センター」で昼食。夜は昭和レトロ感満載の「八戸屋台村みろく横丁」で昔を思いしのびながら夕食を堪能しました。

二日目、十和田八幡平国立公園を代表する景勝地の一つ「十和田湖」と、十和田湖から約14キロメートルにもわたる「奥入瀬溪谷」へ。清流と川石についたコケ、滝の両側の落葉樹の紅葉はみごとでした。十和田湖は、約20万年前に始まった火山活動により形成されたカルデラ湖です。湖畔にたたずむ、詩人で彫刻

家の高村光太郎の最後の作「乙女の像」が印象的でした。

三日目、津軽の中心都市・弘前市で、東北随一の桜の名所でもある弘前城を見学。本場の津軽三味線を聞きながら、青森県最高峰の岩木山(別名：津軽富士)を眺望しました。また青森県と秋田県にまたがる約13万ヘクタールの白神山地は、ブナを中心とした広大な原生林に多種多様な動植物が生息しており、大自然の雄大さを体感することができました。1993年に世界遺産(自然遺産)に登録されています。

以上、三日間を旅して、最も強く感動を受けたところは、原生的なブナ林の静けさに浸る「白神山地」でした。この白神山地を中心とした自然界の森・川・海で多様な生命が育まれ、環のつながりを強く感じました。

春の新緑、秋の紅葉の時期に訪れることをぜひおすすめします。



白神山地のブナ原生林

ご寄贈ありがとうございます



いただいた「小野文学」

小野町在住・出身の有志が、日々の思いや驚き、感動を句や歌に表現した作品を編さんした「小野文学」の第50号を、編集委員長の小島晃様から寄贈いただきました。

このたびの厚志に対し、紙上より厚くお礼申し上げます。

いただいた「小野文学」はふるさと文化の館で閲覧できますので、ぜひご覧ください。